

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	1年前期～後期
科 目 名	成人看護学概論	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	渡邊 真弓(別府医療センター附属大分中央看護学校・教育主事・看護師30年)		
<p>&lt;科目目標&gt; 成人期にある人の特徴を理解し、成人の健康の意義・動向及び特徴的な健康障害・保健活動と法的根拠を理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 成人の概念 1) 大人になること、大人であること 2) 発達段階・発達課題 青年期・壮年期・中年期・向老期 <b>【演習課題Ⅰ】</b> 青年期の特徴(身体・心理・社会的側面)	講義	
2	2. 成人各期の特徴と健康問題 1) 青年期にある人の身体的・心理的・社会的特徴 <b>【演習課題2】</b> 壮年期・中年期・向老期の特徴(身体・心理・社会的側面) ～対象者へのインタビューを通して～	講義 演習	
3～4	2) 壮年期・中年期・向老期にある人の身体的・心理的・社会的特徴	演習	
5	3. 成人期にある人の健康状態の動向 1) 成人をとりまく環境と生活の状況 2) 成人の健康の状況(有病率、受療率、死亡率等) 3) 成人に対する保健医療福祉対策 4) 職場における健康管理	講義	
6～7	4. 成人期にある人の生活と健康問題 1) 生活習慣とライフスタイル ①生活習慣に関連する健康障害 飲酒、喫煙、身体活動量低下と運動不足、肥満 ②職業に関連する健康障害 ③生活ストレスに関連する健康障害 ④引きこもり、うつ、ネット依存症などの健康問題	講義 演習	
8～10	5. 成人看護学に活用できる理論・看護アプローチ ①アンドラゴジー ②ストレスコーピング ③障害の受容・ボディイメージ ④危機理論 ⑤自己効力・アドヒアランス ⑥エンパワーメント ⑦セルフケア・症状マネジメント	講義	

領域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	1年前期～後期
科目名	成人看護学概論	単位数 (時間数)	1単位(30時間)
講師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	渡邊 真弓 (別府医療センター附属大分中央看護学校・教育主事・看護師 30年)		
回	授業内容	授業方法	
11～13	6. 行動変容を促進する看護アプローチ	講義 演習	
	【演習課題3】 *11回目終了後 成人期にある人の行動変容を促進する看護アプローチ		
	グループ共有		
	全体発表		
14	7. 成人学習者である患者のセルフマネジメントを推進する看護技術 ・エンパワメントエデュケーション ・セルフマネジメント教育 ・コンプライアンスを高める ・自己効力を高める	講義	
15	8. 成人への看護アプローチの基本 1) チームアプローチ 2) 意思決定支援 3) 家族支援	講義	
<p>授業の進め方：講義およびグループワーク（課題学習）          心理学で学習した発達課題（エリクソン、ハビガースト）を活用する。          成人期の健康や疾病構造は、その生活行動と関連させて理解する。          健康教育・患者教育を行うために学習者の特徴を理解する（看護を展開するための技術（教育・指導技術）に関係する）。          成人期にある人の心身の特徴や生活の特徴から生じやすい健康障害を理解する。</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1]成人看護学総論(医学書院)</li> <li>2. 国民衛生の動向 2020/2021年版(厚生統計協会)</li> <li>3. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論第2版(学研)</li> </ol>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、課題レポート、授業(講義・演習)参加状況より総合的に評価する。</p>			

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅰ (胃切除術を受ける患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)のうち8時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	甲斐 奈月 (別府医療センター・看護師7年) 奥村 美里 (別府医療センター・手術看護認定看護師・看護師7年)		

<科目目標>

周手術期や救命救急治療を必要とする急激な身体侵襲を受ける成人の特徴と、健康危機状況にある成人の看護を理解する。

<単元目標>

1. 手術前中後における成人の看護問題を理解できる。
2. 安全に配慮し、術後の回復を促進するための手術室看護について理解できる。
3. 合併症のリスク予測や予防看護を提供するとともに、術後の回復を促進するための看護を理解する。

<内容>

(事例：胃がん 胃切除術を受ける患者の看護)

回	授業内容	授業方法
1	<p><b>【手術前】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術の意思決定への支援(インフォームドコンセント、セカンドオピニオン)</li> <li>2. 術前のアセスメント               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 身体的側面</li> <li>2) 手術への反応・心理的状态</li> <li>3) 社会的・経済状況</li> <li>4) 生活像、家族歴</li> <li>5) 検査データ</li> </ol> </li> <li>3. 合併症の予防と指導               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 術前オリエンテーションの目的と方法</li> <li>2) 術前準備</li> <li>3) 術前訓練</li> </ol> </li> <li>4. 手術前日の援助               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 術野の除毛</li> <li>2) 身体の清潔(入浴または全身清拭・洗髪、爪きり、マニキュア除去)</li> <li>3) 術前腸管処置：目的、使用薬物、注意事項</li> <li>4) 補液(術前補水含む)</li> <li>5) 食事制限・水分制限</li> <li>6) 必要物品の確認</li> <li>7) 麻酔科医の診察</li> <li>8) 手術部看護師の術前訪問(目的：心理的不安の緩和、術中看護計画立案のための情報収集)</li> <li>9) 睡眠の確保</li> <li>10) 家族への援助</li> <li>11) 看護記録：術前看護記録用紙またはクリティカルパス</li> </ol> </li> <li>5. 手術当日の援助               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 手術室搬送までの援助：入室前の患者の準備(義歯などの取り外しなど)、手術指示表の確認、手術室入室までの処置や入室方法の説明</li> <li>2) 患者の状態観察・バイタルサイン測定</li> <li>3) 更衣の介助(弾性ストッキングの装着方法)</li> <li>4) 排尿・排便の援助</li> </ol> </li> </ol>	講義

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅰ (胃切除術を受ける患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)のうち8時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	甲斐 奈月 (別府医療センター・看護師7年) 奥村 美里 (別府医療センター・手術看護認定看護師・看護師7年)		
回	授業内容	授業方法	
1	5.手術当日の援助 5) 装身具をはずす (時計、めがね、指輪、ネックレス、ピアス、コンタクトレンズなど) 6) ストレッチャーへの移動 7) 前投薬の実施(指示があれば) 8) 手術室へ持参するものの確認(手術指示簿、カルテ、手術承諾書、麻酔承諾書、輸血同意書、X線フィルムなどの検査資料など) 9) 手術室への搬送(入室時間厳守、患者確認方法) 10) 手術室への申し送り 11) 家族への配慮	講義	
2	【術中】 1.手術室入室から手術開始まで 1) モニター装着 2) 静脈路確保 3) 麻酔導入と体位の準備(体位が身体に及ぼす影響等) (1) 仰臥位 (2) 側臥位 (3) 砕石位 (4) 腹臥位 4) 気管内挿管の介助 5) 手術準備 2.手術開始から手術中 1) 体温管理(体温モニタ、体温調節) 2) 循環管理 3) 尿量測定 4) 出血量カウント 5) 輸液管理 6) 輸血管理 7) 術中看護記録 8) 直接介助者と間接介助者の役割	講義	
3	3.手術終了から麻酔終了時 1) 麻酔覚醒時の援助 4.感染予防 1) 手術室における手指消毒 2) 手袋の装着方法 3) ガウンテクニック 5.事故防止 1) 患者確認 2) 手術室への移送(転落防止) 3) 体内異物残留予防 4) 褥創予防	講義	
4	【手術後】 1.帰室後(術直後)の看護 1) 術式、麻酔に適した体位の調整 2) バイタルサイン・麻酔覚醒状態の観察、測定、記録 3) 術後の観察ポイント:呼吸、循環、意識状態 4) 術後オーダーの確認、施行	講義	

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅰ (胃切除術を受ける患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)のうち8時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	甲斐 奈月 (別府医療センター・看護師7年) 奥村 美里 (別府医療センター・手術看護認定看護師・看護師7年)		

回	授業内容	授業方法
4	<b>【手術後】</b> 1. 帰室後(術直後)の看護 5) 家族面会の設定 2. 術後の看護 1) 術後合併症・術後せん妄の予防 2) 深部静脈血栓症の予防 3) 感染予防 4) 体位による損傷の予防 5) 疼痛緩和(持続硬膜外投与法および新しい術後疼痛管理法:先制鎮痛法、患者管理鎮痛法) 6) 安全管理 7) 口腔ケア 8) 術後処置:創管理、包帯交換、中心静脈カテーテル管理、胃管管理、ドレーナージ管理など 9) 術後ベッド作成 10) 日常生活の援助 11) 離床への援助 12) 退院指導	講義

#### 授業の進め方

講義で事例を示しながら、講義を進める。

#### テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器(医学書院)
2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院)
3. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(医学書院)

#### 評価方法

筆記試験

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期									
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅰ (重症集中治療を受ける患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち4時間									
講 師 (所属・職位等・実務経験)	大矢 健介 (別府医療センター・診療看護師・看護師15年)											
<p>&lt;科目目標&gt; 周手術期や救命救急治療を必要とする急激な身体侵襲を受ける成人の特徴と、健康危機状況にある成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt; 1. 集中治療室において早期に生命の危機を脱し回復を促進するための援助方法を理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 重症集中治療を受ける患者の理解 1) 治療環境 2) 身体的特徴 3) 心理・社会的特徴</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 重症集中治療における看護の役割 1) 救命に対する援助 2) 優先順位の判断 3) 病態の理解とモニタリング 4) 安全・安楽に対する援助 5) 個人の尊重</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 重症集中治療を受ける患者の理解 1) 治療環境 2) 身体的特徴 3) 心理・社会的特徴	講義	2	2. 重症集中治療における看護の役割 1) 救命に対する援助 2) 優先順位の判断 3) 病態の理解とモニタリング 4) 安全・安楽に対する援助 5) 個人の尊重	講義
回	授業内容	授業方法										
1	1. 重症集中治療を受ける患者の理解 1) 治療環境 2) 身体的特徴 3) 心理・社会的特徴	講義										
2	2. 重症集中治療における看護の役割 1) 救命に対する援助 2) 優先順位の判断 3) 病態の理解とモニタリング 4) 安全・安楽に対する援助 5) 個人の尊重	講義										
<p>授業の進め方 講義で事例を示しながら、講義を進める。</p>												
<p>テキスト 1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院)</p>												
<p>評価方法 筆記試験</p>												

領域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期												
科目名 (単元名)	成人看護方法論Ⅰ (急性心筋梗塞患者の看護)	単位数 (時間数)	1単位(30時間)うち6時間												
講師 (所属・職位等・実務経験)	佐藤 芙由子 (別府医療センター・看護師15年)														
<p>&lt;科目目標&gt; 周手術期や救命救急治療を必要とする急激な身体侵襲を受ける成人の特徴と、健康危機状況にある成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt; 1. 心筋梗塞により健康の急激な破綻をきたした患者の看護を理解できる。 2. 成人の看護上の問題を理解し、早期に生命の危機を脱し回復を促進するための看護の方法を理解する。</p> <p>【事前課題1】 1. 心臓の解剖生理 2. 心不全について</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 患者の理解 1) 症状と病態 2) 緊急時の観察ポイント 3) 急性期のアセスメント 4) 回復期のアセスメント</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 看護のポイント 1) 胸痛や呼吸困難などの苦痛の緩和 2) 合併症の予防・早期発見 (1) 心原性ショック (2) 急性心不全 (3) 致死的不整脈 3) 検査時の援助 (1) 心臓カテーテル検査 (2) 血管造影 4) 治療の特殊性と合併症や副作用への対応</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>5) 安静の保持と日常生活の援助 6) 薬物療法の確実な施行 7) 急性期リハビリテーション 8) 社会復帰に向けての生活指導 9) 急変時の対応 (1) 全身症状の有無と程度のアセスメント (2) 主治医への連絡 (3) ハリーコール (4) 救命に対する援助 (5) 苦痛症状の緩和 (6) 患者の死の恐怖や不安への援助 (7) 家族への連絡 (8) 経時的記録 (9) 救急カートの整備</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 患者の理解 1) 症状と病態 2) 緊急時の観察ポイント 3) 急性期のアセスメント 4) 回復期のアセスメント	講義	2	2. 看護のポイント 1) 胸痛や呼吸困難などの苦痛の緩和 2) 合併症の予防・早期発見 (1) 心原性ショック (2) 急性心不全 (3) 致死的不整脈 3) 検査時の援助 (1) 心臓カテーテル検査 (2) 血管造影 4) 治療の特殊性と合併症や副作用への対応	講義	3	5) 安静の保持と日常生活の援助 6) 薬物療法の確実な施行 7) 急性期リハビリテーション 8) 社会復帰に向けての生活指導 9) 急変時の対応 (1) 全身症状の有無と程度のアセスメント (2) 主治医への連絡 (3) ハリーコール (4) 救命に対する援助 (5) 苦痛症状の緩和 (6) 患者の死の恐怖や不安への援助 (7) 家族への連絡 (8) 経時的記録 (9) 救急カートの整備	講義
回	授業内容	授業方法													
1	1. 患者の理解 1) 症状と病態 2) 緊急時の観察ポイント 3) 急性期のアセスメント 4) 回復期のアセスメント	講義													
2	2. 看護のポイント 1) 胸痛や呼吸困難などの苦痛の緩和 2) 合併症の予防・早期発見 (1) 心原性ショック (2) 急性心不全 (3) 致死的不整脈 3) 検査時の援助 (1) 心臓カテーテル検査 (2) 血管造影 4) 治療の特殊性と合併症や副作用への対応	講義													
3	5) 安静の保持と日常生活の援助 6) 薬物療法の確実な施行 7) 急性期リハビリテーション 8) 社会復帰に向けての生活指導 9) 急変時の対応 (1) 全身症状の有無と程度のアセスメント (2) 主治医への連絡 (3) ハリーコール (4) 救命に対する援助 (5) 苦痛症状の緩和 (6) 患者の死の恐怖や不安への援助 (7) 家族への連絡 (8) 経時的記録 (9) 救急カートの整備	講義													
<p>授業の進め方 講義で事例を示しながら、講義を進める。</p>															
<p>テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器(医学書院)</p>															
<p>評価方法 筆記試験</p>															

領 域	専門分野Ⅱ (成人看護学)	開講時期	2 年前期									
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅰ (脳神経外科患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 4 時間									
講 師 (所属・職位等・実務経験)	小川 愛里 (別府医療センター・看護師 6 年)											
<p>&lt;科目目標&gt; 周手術期や救命救急治療を必要とする急激な身体侵襲を受ける成人の特徴と、健康危機状況にある成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt; 1. 脳神経外科疾患の外科的療法により急激な破綻をきたした成人の看護上の問題を理解し、早期に生命の危機を脱し回復を促進するための看護方法を理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 患者の理解 1) 症状と病態 2) 初期治療について 3) 外科的治療 4) 急性期のアセスメント 5) 回復期のアセスメント</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 開頭術後の看護 1) 術後合併症の観察と予防     (1) 術後出血     (2) 術後痙攣     (3) 術後感染     (4) 脳浮腫     (5) 脳血管攣縮 2) 血圧管理 3) 酸素投与 4) ドレーン管理 5) 安静</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 患者の理解 1) 症状と病態 2) 初期治療について 3) 外科的治療 4) 急性期のアセスメント 5) 回復期のアセスメント	講義	2	2. 開頭術後の看護 1) 術後合併症の観察と予防 (1) 術後出血 (2) 術後痙攣 (3) 術後感染 (4) 脳浮腫 (5) 脳血管攣縮 2) 血圧管理 3) 酸素投与 4) ドレーン管理 5) 安静	講義
回	授業内容	授業方法										
1	1. 患者の理解 1) 症状と病態 2) 初期治療について 3) 外科的治療 4) 急性期のアセスメント 5) 回復期のアセスメント	講義										
2	2. 開頭術後の看護 1) 術後合併症の観察と予防 (1) 術後出血 (2) 術後痙攣 (3) 術後感染 (4) 脳浮腫 (5) 脳血管攣縮 2) 血圧管理 3) 酸素投与 4) ドレーン管理 5) 安静	講義										
<p>授業の進め方</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経(医学書院)</p>												
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院)</p>												
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>												

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅰ (食道がん手術を受ける患者の看護過程)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち8時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	大道 真理 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師15年)		
<p>&lt;科目目標&gt; 周手術期や救命救急治療を必要とする急激な身体侵襲を受ける成人の特徴と、健康危機状況にある成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt; 1. 食道がんの手術を受ける患者の術前・術中の状態から術後を予測することで、術後合併症を予防し、回復を促進する看護について理解できる。</p> <p>&lt;内容&gt; 【事前課題】 1. 食道の解剖生理 2. 食道がんの病態生理・検査・治療 3. 危機理論 4. 術後合併症とその発生時期 5. 全身麻酔・硬膜外麻酔の効果、副効果</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 術前の状態からのアセスメント(事例紹介含む) 1) 食道がんの病態 2) 食道がんの治療・術式 3) 全身状態のアセスメント 栄養状態 酸素化 循環・体液バランス	講義・GW	
2	2. 術中の状況からのアセスメント 1) 全身麻酔の影響 2) 体位の影響 3) in-out 3. 術後合併症のリスク	講義・GW	
3～4	4. 術後ドレーン・チューブ管理(術後アセスメント含む) 5. 精神的アセスメント(危機理論)	講義・GW	
<p>授業の進め方 講義、グループワーク</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器(医学書院)</li> <li>2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院)</li> <li>3. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(医学書院)</li> <li>4. NANDA-I 看護診断 定義と分類 (2018 - 2020) (医学書院)</li> </ol>			
<p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポート</li> <li>2. 授業参加状況</li> </ol>			

領 域	専門分野Ⅱ (成人看護学)	開講時期	2年前期									
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅱ (慢性心不全患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 8 時間									
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	甲斐 笑美子 (別府医療センター・看護師 18 年)											
<p>&lt;科目目標&gt;</p> <p>慢性的な健康障害から生活の変化を余儀なくされ、疾病・生活のコントロールを必要とする成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性心不全患者の特徴について理解できる。</li> <li>2. 慢性心不全患者の看護の実際について理解できる。</li> <li>3. 不整脈のある患者の特徴について理解できる。</li> <li>4. 不整脈のある患者の看護の実際について理解できる。</li> <li>5. ペースメーカー植込み術を受けた患者の看護の実際について理解できる。</li> </ol> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>           1. 慢性心不全の患者の看護(不整脈のある患者の看護を含む)            1) 慢性心不全患者の看護              (1) 観察のアセスメント                i. 病歴による評価 (障害の原因)                ii. 心機能分類および指標による評価                iii. 身体的変化                iv. 心理社会的変化                v. 日常生活への影響            (2) 症状とそれに伴う看護            (3) 検査・治療とそれに伴う看護                i. 安静療法   ii. 食事療法                iii. 薬物療法                  ①降圧・利尿薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬の服薬指導                  ②抗凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬の服薬指導                  ③血圧コントロールの生活指導         </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>           (4) 看護の実際              i. 看護アセスメント              ii. 看護目標              iii. 看護活動                ①症状のマネジメント                ②日常生活指導 (自己管理支援)                ③心理的支援(疾病受容、自己モニタリング、自己管理継続、                  心理的葛藤への対応)                ④教育的支援                ⑤社会的支援(家族への援助、社会資源の活用、継続看護、                  チームアプローチ)         </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 慢性心不全の患者の看護(不整脈のある患者の看護を含む) 1) 慢性心不全患者の看護 (1) 観察のアセスメント i. 病歴による評価 (障害の原因) ii. 心機能分類および指標による評価 iii. 身体的変化 iv. 心理社会的変化 v. 日常生活への影響 (2) 症状とそれに伴う看護 (3) 検査・治療とそれに伴う看護 i. 安静療法   ii. 食事療法 iii. 薬物療法 ①降圧・利尿薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬の服薬指導 ②抗凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬の服薬指導 ③血圧コントロールの生活指導	講義	2	(4) 看護の実際 i. 看護アセスメント ii. 看護目標 iii. 看護活動 ①症状のマネジメント ②日常生活指導 (自己管理支援) ③心理的支援(疾病受容、自己モニタリング、自己管理継続、 心理的葛藤への対応) ④教育的支援 ⑤社会的支援(家族への援助、社会資源の活用、継続看護、 チームアプローチ)	講義
回	授業内容	授業方法										
1	1. 慢性心不全の患者の看護(不整脈のある患者の看護を含む) 1) 慢性心不全患者の看護 (1) 観察のアセスメント i. 病歴による評価 (障害の原因) ii. 心機能分類および指標による評価 iii. 身体的変化 iv. 心理社会的変化 v. 日常生活への影響 (2) 症状とそれに伴う看護 (3) 検査・治療とそれに伴う看護 i. 安静療法   ii. 食事療法 iii. 薬物療法 ①降圧・利尿薬、抗不整脈薬、抗狭心症薬の服薬指導 ②抗凝固薬、血栓溶解薬、抗血小板薬の服薬指導 ③血圧コントロールの生活指導	講義										
2	(4) 看護の実際 i. 看護アセスメント ii. 看護目標 iii. 看護活動 ①症状のマネジメント ②日常生活指導 (自己管理支援) ③心理的支援(疾病受容、自己モニタリング、自己管理継続、 心理的葛藤への対応) ④教育的支援 ⑤社会的支援(家族への援助、社会資源の活用、継続看護、 チームアプローチ)	講義										

領 域	専門分野Ⅱ (成人看護学)	開講時期	2年前期									
科 目 名 (单元名)	成人看護方法論Ⅱ (慢性心不全患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 8 時間									
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	甲斐 笑美子 (別府医療センター・看護師 18 年)											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内 容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>2) 不整脈のある患者の看護 (1) 観察のアセスメント i. 不整脈の原因と程度 ii. 身体的変化 iii. 心理社会的変化 iv. 日常生活への影響 (2) 症状とそれに伴う看護 (3) 検査・治療とそれに伴う看護 i. 薬物療法 ii. 手術療法(ペースメーカー植込み術、植込み型徐細動器)</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>(4) ペースメーカー植込み術を受けた患者の看護 i. 看護アセスメント ii. 看護目標と看護活動 ① 症状のマネジメント ② 日常生活指導 (自己管理支援) ③ 心理的支援 (疾病受容、自己モニタリング、自己管理継続) ④ 教育的支援 ⑤ 社会的支援 (家族への援助、社会資源の活用、継続看護、チームアプローチ)</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>			回	内 容	授業方法	3	2) 不整脈のある患者の看護 (1) 観察のアセスメント i. 不整脈の原因と程度 ii. 身体的変化 iii. 心理社会的変化 iv. 日常生活への影響 (2) 症状とそれに伴う看護 (3) 検査・治療とそれに伴う看護 i. 薬物療法 ii. 手術療法(ペースメーカー植込み術、植込み型徐細動器)	講義	4	(4) ペースメーカー植込み術を受けた患者の看護 i. 看護アセスメント ii. 看護目標と看護活動 ① 症状のマネジメント ② 日常生活指導 (自己管理支援) ③ 心理的支援 (疾病受容、自己モニタリング、自己管理継続) ④ 教育的支援 ⑤ 社会的支援 (家族への援助、社会資源の活用、継続看護、チームアプローチ)	講義
回	内 容	授業方法										
3	2) 不整脈のある患者の看護 (1) 観察のアセスメント i. 不整脈の原因と程度 ii. 身体的変化 iii. 心理社会的変化 iv. 日常生活への影響 (2) 症状とそれに伴う看護 (3) 検査・治療とそれに伴う看護 i. 薬物療法 ii. 手術療法(ペースメーカー植込み術、植込み型徐細動器)	講義										
4	(4) ペースメーカー植込み術を受けた患者の看護 i. 看護アセスメント ii. 看護目標と看護活動 ① 症状のマネジメント ② 日常生活指導 (自己管理支援) ③ 心理的支援 (疾病受容、自己モニタリング、自己管理継続) ④ 教育的支援 ⑤ 社会的支援 (家族への援助、社会資源の活用、継続看護、チームアプローチ)	講義										
授業の進め方 講義でVTRなど視聴覚教材を用いながら学習を進める。												
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器(医学書院)												
評価方法 1. 筆記試験 2. 授業への参加状況												

領 域	専門分野Ⅱ (成人看護学)	開講時期	2 年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅱ (糖尿病患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 8 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	板井 省吾 (別府医療センター・看護師 6 年)		
<p>&lt;科目目標&gt; 慢性的な健康障害から生活の変化を余儀なくされ、疾病・生活のコントロールを必要とする成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 糖尿病患者の特徴について理解できる。</li> <li>2. 糖尿病患者の看護の実際について理解できる。</li> <li>3. インスリン療法を受ける患者の看護の実際について理解できる。</li> <li>4. 血糖測定・インスリン注射を実施できる。</li> </ol> <p>&lt;内容&gt;</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 糖尿病患者の看護 1) 観察のアセスメント (1) 膵液分泌障害の原因と程度      (2) 身体的変化 (3) 心理社会的変化                (4) 合併症 (5) 日常生活への影響 2) 症状とそれに伴う看護 (1) 高血糖高浸透圧症候群          (2) 低血糖	講義	
2	2. 治療とそれに伴う看護 1) 薬物療法 (1) インスリン自己注射※、自己血糖測定(SMBG)の指導(医療費について) (2) 経口糖尿病薬(インクレチン関連薬など)の服薬指導 2) 食事療法 3) 運動療法	講義	
3	3. 看護の実際 1) 看護アセスメント 2) 看護目標 3) 看護活動 (1) 症状のマネジメント (2) 日常生活指導(自己管理支援) (3) 心理的支援(疾病受容、自己モニタリング、自己管理継続、心理的葛藤への対応) (4) 教育的支援 (5) 社会的支援(家族への援助、社会資源の活用、継続看護、チームアプローチ)	講義	
4	2. 検査とそれに伴う看護 1) 糖負荷試験(OGTT) 2) 血糖測定(校内演習) ※血糖チェック・インスリン注射の技術については、校内演習を行う。	講義・演習	

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅱ (糖尿病患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち8時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	板井 省吾 (別府医療センター・看護師6年)		
<p>授業の進め方</p> <p>講義でVTRなど視聴覚教材を用いながら、校内演習(器具・装具など実際に見せながら演習を行う)を行い、学習を進める。</p>			
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝(医学書院)</p> <p>2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院)</p>			
<p>評価方法</p> <p>1. 筆記試験</p> <p>2. 授業への参加状況</p>			

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期						
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅱ (甲状腺機能障害患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち2時間						
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田村 委子 (別府医療センター・診療看護師・15年)								
<p>&lt;科目目標&gt; 慢性的な健康障害から生活の変化を余儀なくされ、疾病・生活のコントロールを必要とする成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt; 1. 甲状腺機能障害のある患者の特徴について理解できる。 2. 甲状腺機能障害のある患者の看護の実際について理解できる。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>           1. 甲状腺機能障害のある患者の看護            1) 甲状腺機能障害患者の看護              (1) 観察のアセスメント                i. 身体的変化                ii. 心理社会的変化                iii. 日常生活への影響                iv. 原因と程度                    甲状腺機能亢進症    甲状腺中毒症    甲状腺機能低下症            2) 症状とそれに伴う看護            3) 検査・治療それに伴う看護              (1) 薬物療法(ホルモン療法)              (2) 手術療法              (3) 放射線療法            4) 看護の実際              (1) 看護アセスメント              (2) 看護目標              (3) 看護活動                i. 症状のマネジメント                ii. 日常生活指導(自己管理支援)                iii. 心理的支援(疾病受容、自己管理継続)                iv. 教育的支援                v. 社会的支援(家族への援助、社会資源の活用、継続看護、チームアプローチ)         </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 甲状腺機能障害のある患者の看護 1) 甲状腺機能障害患者の看護 (1) 観察のアセスメント i. 身体的変化 ii. 心理社会的変化 iii. 日常生活への影響 iv. 原因と程度 甲状腺機能亢進症    甲状腺中毒症    甲状腺機能低下症 2) 症状とそれに伴う看護 3) 検査・治療それに伴う看護 (1) 薬物療法(ホルモン療法) (2) 手術療法 (3) 放射線療法 4) 看護の実際 (1) 看護アセスメント (2) 看護目標 (3) 看護活動 i. 症状のマネジメント ii. 日常生活指導(自己管理支援) iii. 心理的支援(疾病受容、自己管理継続) iv. 教育的支援 v. 社会的支援(家族への援助、社会資源の活用、継続看護、チームアプローチ)	講義
回	授業内容	授業方法							
1	1. 甲状腺機能障害のある患者の看護 1) 甲状腺機能障害患者の看護 (1) 観察のアセスメント i. 身体的変化 ii. 心理社会的変化 iii. 日常生活への影響 iv. 原因と程度 甲状腺機能亢進症    甲状腺中毒症    甲状腺機能低下症 2) 症状とそれに伴う看護 3) 検査・治療それに伴う看護 (1) 薬物療法(ホルモン療法) (2) 手術療法 (3) 放射線療法 4) 看護の実際 (1) 看護アセスメント (2) 看護目標 (3) 看護活動 i. 症状のマネジメント ii. 日常生活指導(自己管理支援) iii. 心理的支援(疾病受容、自己管理継続) iv. 教育的支援 v. 社会的支援(家族への援助、社会資源の活用、継続看護、チームアプローチ)	講義							
<p>授業の進め方 講義でVTRなど視聴覚教材を用いながら学習を進める。</p>									
<p>テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝(医学書院)</p>									
<p>評価方法 1. 筆記試験 2. 授業への参加状況</p>									

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅱ (慢性閉塞性肺疾患患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち4時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田長丸 美和 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・23年)		
<p>&lt;科目目標&gt; 慢性的な健康障害から生活の変化を余儀なくされ、疾病・生活のコントロールを必要とする成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt; 1. 慢性閉塞性肺疾患患者の特徴について理解できる。 2. 慢性閉塞性肺疾患患者の看護の実際について理解できる。</p> <p>&lt;内容&gt;</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 機能障害のアセスメント 1) 原因と程度 (1) 酸素化障害 (2) 換気障害 (3) 呼吸運動障害の原因と関連要因 2) 日常生活への影響 2. 症状とその看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療を受ける患者の看護 1) 薬物療法 2) 酸素療法 3) 包括的呼吸リハビリテーション 5. 慢性閉塞性肺疾患患者の病期に応じた援助 1) 観察とアセスメント 2) 治療とそれに伴う看護	講義	
2	3) 急性増悪時の看護 (1) 気道の清浄化 (2) 換気 i. 動脈血ガス分析値、酸素飽和度のモニタリング ii. 体位、呼吸訓練 (3) ガス交換 i. 換気補助療法 ii. 侵襲的陽圧換気療法 (4) 感染 (5) 不安 (6) 休息・睡眠 (7) 排泄 (8) セルフケア不足 4) 安定期の看護 (1) QOL を考慮した患者教育 (2) 禁煙教育 (3) 食事・栄養 (4) 日常生活の工夫と息切れの管理	講義	

領 域	専門分野Ⅱ (成人看護学)	開講時期	2 年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅱ (慢性閉塞性肺疾患患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 4 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田長丸 美和 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・23 年)		
回	授業内容	授業方法	
2	5) 社会的支援の獲得への援助 (1) 患者と家族の相互作用と関係性のアセスメント (2) 患者の抱える問題の理解と援助 (3) 退院調整とチーム連携 (4) 医療費助成制度	講義	
授業の進め方 講義で VTR など視聴覚教材を用いながら学習を進める。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器(医学書院) 2. 新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学[4] 臨床看護総論(メヂカルフレンド社)			
評価方法 1. 筆記試験 2. 授業への参加状況			

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期															
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅱ (慢性肝炎患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち8時間															
講 師 (所属・職位等・実務経験)	峯 彩香 (別府医療センター・看護師8年)																	
<p>&lt;科目目標&gt; 慢性的な健康障害から生活の変化を余儀なくされ、疾病・生活のコントロールを必要とする成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt; 1. 慢性肝炎患者の特徴について理解できる。 2. 慢性肝炎患者の看護の実際について理解できる。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 慢性肝炎患者の看護(肝硬変、肝がんの看護を含む) 1)慢性肝炎患者の看護 (1)観察のアセスメント i. 身体的変化                      ii. 心理社会的変化 iii. 日常生活への影響          iv. 慢性肝炎の原因と分類 v. 肝硬変の原因と分類        vi. 肝がんの原因と分類</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>(2)症状とそれに伴う看護</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>(3)検査・治療それに伴う看護 i. 薬物療法：肝庇護療法、インターフェロン療法 ii. 食事療法 iii. 安静療法</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>(4)看護の実際 i. 看護アセスメント ii. 看護目標 iii. 看護活動 ①症状のマネジメントと悪化予防 ②日常生活指導(自己管理支援) ③心理的支援(疾病受容、自己モニタリング、自己管理継続、心理的葛藤への対応) ④教育的支援 ⑤社会的支援(家族への援助、社会資源の活用、継続看護、チームアプローチ)</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 慢性肝炎患者の看護(肝硬変、肝がんの看護を含む) 1)慢性肝炎患者の看護 (1)観察のアセスメント i. 身体的変化                      ii. 心理社会的変化 iii. 日常生活への影響          iv. 慢性肝炎の原因と分類 v. 肝硬変の原因と分類        vi. 肝がんの原因と分類	講義	2	(2)症状とそれに伴う看護	講義	3	(3)検査・治療それに伴う看護 i. 薬物療法：肝庇護療法、インターフェロン療法 ii. 食事療法 iii. 安静療法	講義	4	(4)看護の実際 i. 看護アセスメント ii. 看護目標 iii. 看護活動 ①症状のマネジメントと悪化予防 ②日常生活指導(自己管理支援) ③心理的支援(疾病受容、自己モニタリング、自己管理継続、心理的葛藤への対応) ④教育的支援 ⑤社会的支援(家族への援助、社会資源の活用、継続看護、チームアプローチ)	講義
回	授業内容	授業方法																
1	1. 慢性肝炎患者の看護(肝硬変、肝がんの看護を含む) 1)慢性肝炎患者の看護 (1)観察のアセスメント i. 身体的変化                      ii. 心理社会的変化 iii. 日常生活への影響          iv. 慢性肝炎の原因と分類 v. 肝硬変の原因と分類        vi. 肝がんの原因と分類	講義																
2	(2)症状とそれに伴う看護	講義																
3	(3)検査・治療それに伴う看護 i. 薬物療法：肝庇護療法、インターフェロン療法 ii. 食事療法 iii. 安静療法	講義																
4	(4)看護の実際 i. 看護アセスメント ii. 看護目標 iii. 看護活動 ①症状のマネジメントと悪化予防 ②日常生活指導(自己管理支援) ③心理的支援(疾病受容、自己モニタリング、自己管理継続、心理的葛藤への対応) ④教育的支援 ⑤社会的支援(家族への援助、社会資源の活用、継続看護、チームアプローチ)	講義																
<p>授業の進め方 講義でVTRなど視聴覚教材を用いながら学習を進める。</p>																		
<p>テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器(医学書院)</p>																		
<p>評価方法 1. 筆記試験 2. 授業への参加状況</p>																		

領 域	専門分野Ⅱ (成人看護学)	開講時期	2 年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅲ (関節リウマチをもつ患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 4 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	野尻 采香 (別府医療センター・看護師 5 年)		
<p>&lt;科目目標&gt;          治癒困難・身体機能障害により、新しい生活の再獲得を必要とする成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt;          1. 関節リウマチ患者の特徴について理解できる。          2. 関節リウマチ患者の看護の実際について理解できる。</p> <p>&lt;内容&gt;</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 関節リウマチ患者の看護 1) 関節リウマチのアセスメントとそれに伴う看護 (1) 関節リウマチの診断基準 (2) 関節リウマチ患者に行われる検査の種類とその値の変化 2) 関節リウマチが生活に及ぼす影響 3) 看護の実際 (1) 看護アセスメント      (2) 看護目標      (3) 看護活動 i. 症状のマネジメントと悪化予防 ii. 日常生活への援助 (生活機能変化に応じた生活の再獲得、適応への援助)	講義・演習	
2	3) 看護の実際 (3) 看護活動 iii. 心理的支援(障害受容、ボディイメージの変容、自己管理継続) iv. 社会参加と適応へのアプローチ(社会生活復帰に向けての援助) v. 教育的支援 vi. 家族への援助 vii. 社会資源の活用 viii. チームアプローチ (4) 治療とそれに伴う看護 i. 薬物療法(消炎鎮痛剤、抗リウマチ薬、副腎皮質ホルモン製剤の服薬指導) (5) 関節リウマチのリハビリテーションと看護	講義・演習	
<p>授業の進め方          講義でVTRなど視聴覚教材を用いながら学習を進める。</p>			
<p>テキスト          1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症(医学書院)</p>			
<p>評価方法          1. 筆記試験      2. 授業への参加状況</p>			

領 域	専門分野Ⅱ (成人看護学)	開講時期	2 年前期									
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅲ (性・生殖機能障害のある患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 6 時間									
講 師 <small>(所属・職位等・実務経歴)</small>	佐藤 志保 (別府医療センター・看護師 6 年) 津下 智子 (別府医療センター・乳がん看護認定看護師・看護師 16 年)											
<p>&lt;科目目標&gt; 治癒困難・身体機能障害により、新しい生活の再獲得を必要とする成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子宮がんにより子宮摘出術を受けた患者の特徴について理解できる。</li> <li>2. 子宮がんにより子宮摘出術を受けた患者の看護に実際について理解できる。</li> <li>3. 乳がんにより乳房切除術を受けた患者の特徴について理解できる。</li> <li>4. 乳がんにより乳房切除術を受けた患者の看護に実際について理解できる。</li> </ol> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>           1. 子宮がんにより子宮摘出術を受ける患者の看護                -4 時間 (講師：佐藤 志保)            1) 機能障害のアセスメント                (1) 観察とアセスメント                    i. 身体的変化   ii. 心理社会的変化                (2) 機能障害が生活に及ぼす影響            2) 症状と看護            3) 検査を受ける患者の看護                (1) 外診・内診時の看護            4) 治療を受ける患者の看護                (1) 薬物療法(ホルモン剤の服薬指導)                (2) 女性生殖器切除術：子宮摘出術         </td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>           5) 機能障害をもちながら生活する子宮がん患者の看護            (1) 看護アセスメント            (2) 看護目標            (3) 看護活動                i. 症状のマネジメント                ii. 日常生活への援助(生活機能変化に応じた生活の再獲得、適応への援助)                iii. 心理的支援(障害受容、ボディイメージの変容、心理的葛藤への対応)                iv. 社会参加と適応へのアプローチ(社会生活復帰に向けての援助、社会資源の活用)                v. チームアプローチ         </td> <td>講義・演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 子宮がんにより子宮摘出術を受ける患者の看護 -4 時間 (講師：佐藤 志保) 1) 機能障害のアセスメント (1) 観察とアセスメント i. 身体的変化   ii. 心理社会的変化 (2) 機能障害が生活に及ぼす影響 2) 症状と看護 3) 検査を受ける患者の看護 (1) 外診・内診時の看護 4) 治療を受ける患者の看護 (1) 薬物療法(ホルモン剤の服薬指導) (2) 女性生殖器切除術：子宮摘出術	講義・演習	2	5) 機能障害をもちながら生活する子宮がん患者の看護 (1) 看護アセスメント (2) 看護目標 (3) 看護活動 i. 症状のマネジメント ii. 日常生活への援助(生活機能変化に応じた生活の再獲得、適応への援助) iii. 心理的支援(障害受容、ボディイメージの変容、心理的葛藤への対応) iv. 社会参加と適応へのアプローチ(社会生活復帰に向けての援助、社会資源の活用) v. チームアプローチ	講義・演習
回	授業内容	授業方法										
1	1. 子宮がんにより子宮摘出術を受ける患者の看護 -4 時間 (講師：佐藤 志保) 1) 機能障害のアセスメント (1) 観察とアセスメント i. 身体的変化   ii. 心理社会的変化 (2) 機能障害が生活に及ぼす影響 2) 症状と看護 3) 検査を受ける患者の看護 (1) 外診・内診時の看護 4) 治療を受ける患者の看護 (1) 薬物療法(ホルモン剤の服薬指導) (2) 女性生殖器切除術：子宮摘出術	講義・演習										
2	5) 機能障害をもちながら生活する子宮がん患者の看護 (1) 看護アセスメント (2) 看護目標 (3) 看護活動 i. 症状のマネジメント ii. 日常生活への援助(生活機能変化に応じた生活の再獲得、適応への援助) iii. 心理的支援(障害受容、ボディイメージの変容、心理的葛藤への対応) iv. 社会参加と適応へのアプローチ(社会生活復帰に向けての援助、社会資源の活用) v. チームアプローチ	講義・演習										

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅲ (性・生殖機能障害のある患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち6時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	佐藤 志保 (別府医療センター・看護師6年) 津下 智子 (別府医療センター・乳がん看護認定看護師・看護師16年)		
回	授業内容	授業方法	
3	<p>2. 乳がんにより乳房切除術を受けた患者の看護 - 2時間 (講師:津下 智子)</p> <p>1)機能障害のアセスメント 2)症状とその看護 3)検査を受ける患者の看護 4)治療を受ける患者の看護 5)機能障害をもちながら生活する乳がん患者の看護</p> <p>(1)観察とアセスメント i. 身体的変化 ii. 心理社会的変化 (2)機能障害が生活に及ぼす影響 (3)看護の実際 i. 看護アセスメント ii. 看護目標 iii. 看護活動</p> <p>①症状のマネジメント ②日常生活への援助(生活機能変化に応じた生活の再獲得、適応への援助) ③心理的支援(障害受容、ボディイメージの変容、心理的葛藤への対応) ④社会参加と適応へのアプローチ(社会生活復帰に向けての援助、社会資源の活用) ⑤チームアプローチ iv. リマンケアの実際、リハビリテーションと看護</p>	講義・演習	
授業の進め方 講義でVTRなど視聴覚教材を用いながら学習を進める。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器(医学書院) 2. 病気がみえる vol.9 婦人科・乳腺外科 第3版			
評価方法 1. 筆記試験 2. 授業への参加状況			

領 域	専門分野Ⅱ (成人看護学)	開講時期	2 年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅲ (下肢動脈閉塞症患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 2 時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	河野 涼 (別府医療センター・看護師 5 年)		

<科目目標>

治癒困難・身体機能障害により、新しい生活の再獲得を必要とする成人の看護を理解する。

<単元目標>

1. 下肢動脈閉塞症により下肢の切断術を受けた患者の特徴について理解できる。
2. 下肢動脈閉塞症により下肢の切断術を受けた患者の看護の実際について理解できる。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1	1. 下肢動脈閉塞症患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 症状と看護</li> <li>2) 治療を受ける患者の看護               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 血栓溶解療法：抗凝固薬、血管拡張薬、側副血行促進薬の投与</li> <li>(2) 血栓除去術、経皮的血管形成術、バイパス手術</li> </ol> </li> </ol> 2. 下肢の切断手術を受けた患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 観察とアセスメント               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 身体的変化</li> <li>(2) 心理社会的変化：障害の受容過程</li> </ol> </li> <li>2) 機能障害が生活に及ぼす影響</li> <li>3) 看護の実際               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 看護アセスメント</li> <li>(2) 看護目標</li> <li>(3) 看護活動                   <ol style="list-style-type: none"> <li>i. 症状のマネジメント</li> <li>ii. 日常生活への援助 (生活機能変化に応じた生活の再獲得、適応への援助)</li> <li>iii. 心理的支援 (障害受容、ボディイメージの変容、心理的葛藤への対応)</li> <li>iv. 社会参加と適応へのアプローチ (社会生活復帰に向けての援助、社会資源の活用)</li> <li>v. 家族への援助</li> <li>vi. チームアプローチ</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>(4) リハビリテーションと看護</li> </ol>	講義・演習

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅲ (下肢動脈閉塞症患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち2時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	河野 涼 (別府医療センター・看護師5年)		
<p>授業の進め方 講義でVTRなど視聴覚教材を用いながら学習を進める</p>			
<p>テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器(医学書院)</p>			
<p>評価方法 1. 筆記試験 2. 授業への参加状況</p>			

領域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期						
科目名 (単元名)	成人看護方法論Ⅲ (喉頭がん患者の看護)	単位数 (時間数)	1単位(30時間)うち2時間						
講師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	中野 遊 (別府医療センター・看護師7年)								
<p>&lt;科目目標&gt; 治癒困難・身体機能障がいにより、新しい生活の再獲得を必要とする成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt; 1. 喉頭がんにより喉頭摘出術を受けた患者の特徴について理解できる。 2. 喉頭がんにより喉頭摘出術を受けた患者の看護の実際について理解できる。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>           1. 喉頭摘出術を受けた患者の看護            1) 観察とアセスメント              (1) 身体的変化                i. 発声機能                      ii. 摂食・嚥下機能              (2) 心理社会的変化            2) 機能障がい生活に及ぼす影響            3) 看護の実際              (1) 看護アセスメント            (2) 看護目標              (3) 看護活動                i. 症状のマネジメント                ii. 日常生活への援助(生活機能変化に応じた生活の再獲得、                    適応への援助)                iii. 心理的支援(障害受容、ボディイメージの変容、心理的葛藤への対応)                iv. 社会参加と適応へのアプローチ(社会生活復帰に向けての援助、社会資源の活用)                v. 家族への心理的、教育的支援                vi. チームアプローチ            (4) リハビリテーションと看護                i. 摂食・嚥下訓練              ii. 食道発声訓練         </td> <td>講義・演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 喉頭摘出術を受けた患者の看護 1) 観察とアセスメント (1) 身体的変化 i. 発声機能                      ii. 摂食・嚥下機能 (2) 心理社会的変化 2) 機能障がい生活に及ぼす影響 3) 看護の実際 (1) 看護アセスメント            (2) 看護目標 (3) 看護活動 i. 症状のマネジメント ii. 日常生活への援助(生活機能変化に応じた生活の再獲得、 適応への援助) iii. 心理的支援(障害受容、ボディイメージの変容、心理的葛藤への対応) iv. 社会参加と適応へのアプローチ(社会生活復帰に向けての援助、社会資源の活用) v. 家族への心理的、教育的支援 vi. チームアプローチ (4) リハビリテーションと看護 i. 摂食・嚥下訓練              ii. 食道発声訓練	講義・演習
回	授業内容	授業方法							
1	1. 喉頭摘出術を受けた患者の看護 1) 観察とアセスメント (1) 身体的変化 i. 発声機能                      ii. 摂食・嚥下機能 (2) 心理社会的変化 2) 機能障がい生活に及ぼす影響 3) 看護の実際 (1) 看護アセスメント            (2) 看護目標 (3) 看護活動 i. 症状のマネジメント ii. 日常生活への援助(生活機能変化に応じた生活の再獲得、 適応への援助) iii. 心理的支援(障害受容、ボディイメージの変容、心理的葛藤への対応) iv. 社会参加と適応へのアプローチ(社会生活復帰に向けての援助、社会資源の活用) v. 家族への心理的、教育的支援 vi. チームアプローチ (4) リハビリテーションと看護 i. 摂食・嚥下訓練              ii. 食道発声訓練	講義・演習							
<p>授業の進め方 講義でVTRなど視聴覚教材を用いながら学習を進める。</p>									
<p>テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉(医学書院)</p>									
<p>評価方法 1. 筆記試験 2. 授業への参加状況</p>									

領 域	専門分野Ⅱ (成人看護学)	開講時期	2 年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅲ (大腸がん患者の看護)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 4 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	岡本 詩寿子 (別府医療センター・皮膚排泄ケア認定看護師・看護師 29 年)		
<p>&lt;科目目標&gt;          治癒困難・身体機能障がいにより、新しい生活の再獲得を必要とする成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt;          1. 大腸がんによりストーマ造設した患者の特徴について理解できる。          2. 大腸がんによりストーマ造設した患者の看護の実際について理解できる。</p> <p>&lt;内容&gt;</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 機能障がいのアセスメント 1) 観察とアセスメント (1) 身体的変化 i. 排泄機能 (2) 心理社会的変化 i. 障がいの受容過程   ii. 自己概念の障がい (3) 機能障がい生活に及ぼす影響 2. 症状と看護 3. 検査を受ける患者の看護 4. 治療を受ける患者の看護	講義	
2	5. 機能障がいをもちながら生活する大腸がん患者の看護 1) 看護アセスメント 2) 看護目標 3) 看護活動 (1) 症状のマネジメント (2) 日常生活への援助(生活機能変化に応じた生活の再獲得、適応への援助) (3) 心理的支援(障がい受容、ボディイメージの変容、心理的葛藤への対応) (4) 社会参加と適応へのアプローチ(社会生活復帰に向けての援助、社会資源の活用) (5) 家族への心理的、教育的支援 (6) チームアプローチ (7) リハビリテーションと看護 (8) ストーマケアの実際	講義	
<p>授業の進め方          講義でVTRなど視聴覚教材を用いながら学習を進める。</p>			
<p>テキスト          1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器(医学書院)          2. 系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論(医学書院)</p>			
<p>評価方法          1. 筆記試験      2. 授業への参加状況</p>			

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅲ (看護過程の展開)	単 位 数 (時間数)	1単位(30時間)うち12時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	杉安 久美(別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師17年)		

<科目目標>

治癒困難・身体機能障害により、新しい生活の再獲得を必要とする成人の看護を理解する。

<単元目標>

1. 脳血管障害のある人の特徴を理解できる。
2. 脳血管障害のある人の看護の実際について理解できる。
3. 脳梗塞が患者に与える身体的・精神的・社会的影響について述べることができ、看護計画の立案ができる。

<内容>

【課題1】(※課題の時期等は開講時期に指示する。)

1. 脳の解剖生理、血管疾患の病態生理、検査、治療、処置
2. 成人の発達理論と身体・心理社会的特徴、障害受容の理論

回	授業内容	授業方法
1	1. 生活機能障害のある成人の特徴および看護の特徴について 2. 事例展開 1) 事例紹介：56歳、女性、脳梗塞(左中大脳動脈穿通枝領域) 2) アセスメントの視点	講義
2～3	3. 行動のアセスメント～刺激のアセスメント 以下の内容を含めてアセスメントを行う 1) 健康障害が及ぼす生活への影響 2) 健康障害による社会的役割の変化 (1) 成人期における発達課題 (2) 健康障害により生じた役割変化や役割喪失 (3) 役割が果たせないことに伴う心理状態 (役割葛藤)	講義 グループワーク
4～6	4. 刺激のアセスメントまとめ 5. 関連図 6. 看護診断 7. 介入計画 8. 評価	講義 グループワーク

領 域	専門分野Ⅱ (成人看護学)	開講時期	2 年前期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅲ (看護過程の展開)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 12 時間
講 師 (所属・職位等・実務経験)	杉安 久美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 17 年)		
<b>授業の進め方</b> 事例を個人で展開し、看護過程のプロセスごとにグループワークを通して理解を深める。			
<b>テキスト</b> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経(医学書院) 2. NANDA－Ⅰ看護診断 定義と分類〈2018－2020〉(医学書院) 3. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論(学研) 4. ザ・ロイ適応看護モデル 第2版(医学書院)			
<b>評価方法</b> 1. 筆記試験            2. レポート            3. 授業への参加状況			

領域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年後期									
科目名 (単元名)	成人看護方法論Ⅳ (緩和ケアと終末期ケアを行うための対象理解)	単位数 (時間数)	1単位(30時間)うち4時間									
講師 (所属・職位等・実務経験)	服部 直哉 (別府医療センター・看護師12年)											
<p>&lt;科目目標&gt; がんや難病など治療・治癒困難な健康障害によって終末期にある成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt; 1. 人生の終末期にある人を取り巻く現状を知り、患者とその課題について理解する。 2. 人生の終末期にある人とその家族の苦痛や思いを共感し、個々の死生観・看護観につなげることができる。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>           1. 終末期の意味と現状・課題            1) 終末期医療の現状と課題              (1) インフォームドコンセント                i. 病名告知と予後告知              (2) 倫理問題                i. 安楽死と尊厳死                ii. 患者の自己決定の自由                iii. リビングウィルについて            2) 緩和ケアと終末期ケアの概念            3) 緩和ケアチームにおける役割            2. 緩和ケアと終末期ケアを行うための対象把握            1) 情報収集の視点              (1) 全人的苦痛              (2) 疾患の進行による身体機能の低下から日常生活に支障をきたしていること         </td> <td>講義 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>           3. 終末期にある人の看護            1) 看護の機能と役割            2) 終末期にある人のQOLについて              (1) 終末期に向かう慢性期のQOLとセルフマネジメント、ターミナル期のQOLとセルフマネジメント              (2) 病気と向かい合って「生きる」とは、自分らしく「生きる」とは         </td> <td>講義 グループワーク</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 終末期の意味と現状・課題 1) 終末期医療の現状と課題 (1) インフォームドコンセント i. 病名告知と予後告知 (2) 倫理問題 i. 安楽死と尊厳死 ii. 患者の自己決定の自由 iii. リビングウィルについて 2) 緩和ケアと終末期ケアの概念 3) 緩和ケアチームにおける役割 2. 緩和ケアと終末期ケアを行うための対象把握 1) 情報収集の視点 (1) 全人的苦痛 (2) 疾患の進行による身体機能の低下から日常生活に支障をきたしていること	講義 グループワーク	2	3. 終末期にある人の看護 1) 看護の機能と役割 2) 終末期にある人のQOLについて (1) 終末期に向かう慢性期のQOLとセルフマネジメント、ターミナル期のQOLとセルフマネジメント (2) 病気と向かい合って「生きる」とは、自分らしく「生きる」とは	講義 グループワーク
回	授業内容	授業方法										
1	1. 終末期の意味と現状・課題 1) 終末期医療の現状と課題 (1) インフォームドコンセント i. 病名告知と予後告知 (2) 倫理問題 i. 安楽死と尊厳死 ii. 患者の自己決定の自由 iii. リビングウィルについて 2) 緩和ケアと終末期ケアの概念 3) 緩和ケアチームにおける役割 2. 緩和ケアと終末期ケアを行うための対象把握 1) 情報収集の視点 (1) 全人的苦痛 (2) 疾患の進行による身体機能の低下から日常生活に支障をきたしていること	講義 グループワーク										
2	3. 終末期にある人の看護 1) 看護の機能と役割 2) 終末期にある人のQOLについて (1) 終末期に向かう慢性期のQOLとセルフマネジメント、ターミナル期のQOLとセルフマネジメント (2) 病気と向かい合って「生きる」とは、自分らしく「生きる」とは	講義 グループワーク										
<p>授業の進め方 講義でグループワークを取り入れながら学習を進める。“悪い知らせ”の知らせ方と支援から看護師の対応を考えることができるようにする。終末期医療の決定プロセスガイドラインを用いて終末期の心肺蘇生について考えられるようにする。成人の発達課題から治癒困難な疾患にかかってしまったことを考えられるようにする。</p>												
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論(医学書院)</li> <li>2. 系統看護学講座別巻 緩和ケア(医学書院)</li> </ol>												
<p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験</li> <li>2. レポート</li> <li>3. 授業態度・参加状況</li> </ol>												

領 域	専門分野Ⅱ (成人看護学)	開講時期	2年後期												
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅳ (苦痛の緩和手法)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 6 時間												
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	江上 雅代 (別府医療センター・がん看護専門看護師・看護師 27 年)														
<p>&lt;科目目標&gt; がんや難病など治療・治癒困難な健康障がいによって終末期にある成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt; 1. 終末期にある患者の代表的な症状とその看護について理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 苦痛の緩和への方法 1) 症状マネジメント 2) 症状コントロール(メカニズムとそのマネジメント) (1) 痛み i. がん性疼痛コントロールの考え方・すすめ方 ii. よく使用される消炎鎮痛剤、免疫抑制剤</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2) 症状コントロール (メカニズムとそのマネジメント) (2) 浮腫 (3) 全身倦怠感</td> <td>講義 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2) 症状コントロール (メカニズムとそのマネジメント) (4) 食欲不振</td> <td>講義 グループワーク</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 苦痛の緩和への方法 1) 症状マネジメント 2) 症状コントロール(メカニズムとそのマネジメント) (1) 痛み i. がん性疼痛コントロールの考え方・すすめ方 ii. よく使用される消炎鎮痛剤、免疫抑制剤	講義	2	2) 症状コントロール (メカニズムとそのマネジメント) (2) 浮腫 (3) 全身倦怠感	講義 グループワーク	3	2) 症状コントロール (メカニズムとそのマネジメント) (4) 食欲不振	講義 グループワーク
回	授業内容	授業方法													
1	1. 苦痛の緩和への方法 1) 症状マネジメント 2) 症状コントロール(メカニズムとそのマネジメント) (1) 痛み i. がん性疼痛コントロールの考え方・すすめ方 ii. よく使用される消炎鎮痛剤、免疫抑制剤	講義													
2	2) 症状コントロール (メカニズムとそのマネジメント) (2) 浮腫 (3) 全身倦怠感	講義 グループワーク													
3	2) 症状コントロール (メカニズムとそのマネジメント) (4) 食欲不振	講義 グループワーク													
<p>授業の進め方 講義でグループワークを取り入れながら学習を進める。教育内容が押さえられるよう1つ以上事例を選定し、教育内容がイメージできるものを用いる。治療困難なものであり、がんと限定はしない。がん性疼痛コントロールの考え方・すすめ方ではWHOのがん性疼痛コントロールを用いる。がんの悪液質(消化管症状)を抑えながら人間にとっての“食べる”を考えられる。</p>															
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論(医学書院)</li> <li>2. 系統看護学講座別巻 緩和ケア (医学書院)</li> </ol>															
<p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験</li> <li>2. レポート</li> <li>3. 授業態度・参加状況</li> </ol>															

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年後期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅳ (全人的苦痛とスピリチュアルケア)	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間) うち 14 時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経歴)</small>	杉安 久美 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・看護師 17 年) 高野 由香里 (別府医療センター・がん化学療法認定看護師 14 年)		

<科目目標>

がんや難病など治療・治癒困難な健康障がいによって終末期にある成人の看護を習得する。

<単元目標>

1. 人間の尊厳を保ちつつ患者本人とその家族にとって生と死が有意義となるような終末期の看護について理解する。
2. 基本的技術の中から、患者の状態を考慮した苦痛の緩和について理解する。

<内容>

【事前課題】

事例：膵臓がんの終末期患者の看護過程展開 50歳前半、女性  
膵臓の解剖生理、膵臓がんの病態生理、膵臓がんの合併症、膵臓がんの検査・治療・処置、成人期の発達課題と身体・精神・社会的特徴、終末期のキューブラロスの5段階モデル、コンフォート理論について事前学習を行う。

回	授業内容	授業方法
1	1. 膵臓がん患者の看護 1) 健康段階に応じた看護目標と看護ポイント 2) 診断・治療・検査に伴う看護の実際	講義・演習
2	2. 第1段階アセスメント(行動)の検討	講義・演習
3	3. 関連図の検討	講義・演習
4	4. 第2段階アセスメント(刺激)の検討	講義・演習
5	5. 介入計画の検討	講義・演習
6	6. 特徴的な看護技術 — 4時間 高野 由香里 1) 代替・補完療法とは 2) 浮腫・倦怠感のある患者への足浴・指圧・マッサージ	講義
7	6. 特徴的な看護技術 3) 浮腫・倦怠感のある患者への足浴・指圧・マッサージ(演習)	演習

授業の進め方

講義で、校内演習・グループワークを取り入れながら学習を進める。

1. 患者把握から看護介入までつなげて考えられるようにする。このとき、健康障害の特徴、健康段階、主要症状から情報・判断の視点、着目する看護問題についてわかるようにする。
2. 事例展開した介入計画にそって、特徴的な看護技術として学んだ、苦痛の軽減を目的とした浮腫・倦怠感の代替・補完療法として指圧・マッサージを校内演習で行う。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論(医学書院)
2. 系統看護学講座別巻 緩和ケア (医学書院)
3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器(医学書院)
4. NANDA-I 看護診断 定義と分類(2018 - 2020) (医学書院)
5. ザ・ロイ適応看護モデル 第2版(医学書院)
6. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第2版(学研)

評価方法

1. 筆記試験
2. レポート
3. 授業態度・参加状況

領 域	専門分野Ⅱ (成人看護学)	開講時期	2年後期												
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅳ (家族のケア)	単 位 数 (時間数)	1 単位 (30 時間) うち 6 時間												
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	院内講師 (別府医療センター・看護師)														
<p>&lt;科目目標&gt; がんや難病など治療・治癒困難な健康障がいによって終末期にある成人の看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt; 1. 人生の終末期にある患者の家族に対する援助について理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 家族の定義と家族ケアのあり方 1) 家族とは 2) 家族看護とは 3) 家族理論 (1) 家族理論の概要と枠組み (2) 渡辺式家族アセスメントモデル (3) 家族看護エンパワーメントモデル</td> <td>講義 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 終末期にある人の家族、および看取り後の家族ケア 1) 家族ケア・遺族ケアの基本的な考え方 (1) 身体的援助 (2) 心理・社会・霊的側面の援助 2) 家族アセスメントの方法とそのプロセス 3) 家族ケアの方法 (1) 悪い知らせの伝え方ー家族説明 (2) 積極的治療から緩和ケアへの移行時 (3) 家族内で経済・家庭運営・家族関係上など役割調整に対する支援</td> <td>講義 グループワーク</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>2. 終末期にある人の家族、および看取り後の家族ケア 4) 家族のストレス：グリーフケア 5) 臨死期における看護 (1) 終末期患者の看取り (2) 急性状態における見取り</td> <td>講義 グループワーク</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 家族の定義と家族ケアのあり方 1) 家族とは 2) 家族看護とは 3) 家族理論 (1) 家族理論の概要と枠組み (2) 渡辺式家族アセスメントモデル (3) 家族看護エンパワーメントモデル	講義 グループワーク	2	2. 終末期にある人の家族、および看取り後の家族ケア 1) 家族ケア・遺族ケアの基本的な考え方 (1) 身体的援助 (2) 心理・社会・霊的側面の援助 2) 家族アセスメントの方法とそのプロセス 3) 家族ケアの方法 (1) 悪い知らせの伝え方ー家族説明 (2) 積極的治療から緩和ケアへの移行時 (3) 家族内で経済・家庭運営・家族関係上など役割調整に対する支援	講義 グループワーク	3	2. 終末期にある人の家族、および看取り後の家族ケア 4) 家族のストレス：グリーフケア 5) 臨死期における看護 (1) 終末期患者の看取り (2) 急性状態における見取り	講義 グループワーク
回	授業内容	授業方法													
1	1. 家族の定義と家族ケアのあり方 1) 家族とは 2) 家族看護とは 3) 家族理論 (1) 家族理論の概要と枠組み (2) 渡辺式家族アセスメントモデル (3) 家族看護エンパワーメントモデル	講義 グループワーク													
2	2. 終末期にある人の家族、および看取り後の家族ケア 1) 家族ケア・遺族ケアの基本的な考え方 (1) 身体的援助 (2) 心理・社会・霊的側面の援助 2) 家族アセスメントの方法とそのプロセス 3) 家族ケアの方法 (1) 悪い知らせの伝え方ー家族説明 (2) 積極的治療から緩和ケアへの移行時 (3) 家族内で経済・家庭運営・家族関係上など役割調整に対する支援	講義 グループワーク													
3	2. 終末期にある人の家族、および看取り後の家族ケア 4) 家族のストレス：グリーフケア 5) 臨死期における看護 (1) 終末期患者の看取り (2) 急性状態における見取り	講義 グループワーク													
<p>授業の進め方</p> <p>講義でグループワーク・演習を行いながら学習を進める。中範囲理論を用いて家族看護を理解できるように講義を行う。また、危機理論・家族理論などを用い家族が陥りやすい状態を理解し援助に生かせるようにする。治療困難な患者を受け持つ家族が死を意識せざるをえない状況になった時から患者と死別して悲観から回復するまでを理解できるように講義を行う。死亡から病院を出られるまでの家族の状況をイメージできるように講義を行う。</p>															
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論 (医学書院)</li> <li>2. 系統看護学講座別巻 緩和ケア (医学書院)</li> <li>3. 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第2版 (学研)</li> </ol>															
<p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 筆記試験</li> <li>2. レポート</li> <li>3. 授業態度・参加状況</li> </ol>															

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年後期									
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅴ (ドレーン管理・ストーマケア・創傷処置)	単 位 数 (時間数)	1単位(15時間)うち4時間									
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	岡本 詩寿子 (別府医療センター・皮膚排泄ケア認定看護師・看護師29年)											
<p>&lt;科目目標&gt; 成人看護学概論・成人看護方法論で学んだ知識と基礎看護学で学んだ知識・技術を統合し、健康障がいをもつ成人に応じた看護を理解する。</p> <p>&lt;単元目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ドレーン・チューブ目的や管理方法を理解し、実施できる。</li> <li>2. ストーマの管理方法を理解し、実施できる。</li> <li>3. 創傷治癒を促進する方法を理解できる。</li> </ol> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 急激な身体侵襲をきたした患者の看護 1) チューブ・ドレーン管理 (1) 胃チューブ・イレウス管 (2) 持続吸引：低圧胸腔内吸引 (3) 膀胱留置カテーテル管理 2) 創傷処置の実際 (1) 創傷のアセスメント (2) ドレッシング</td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. ストーマケアの実際 1) ストーマの観察方法 2) ストーマ装具の選択 3) ストーマケア方法</td> <td>講義・演習</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 急激な身体侵襲をきたした患者の看護 1) チューブ・ドレーン管理 (1) 胃チューブ・イレウス管 (2) 持続吸引：低圧胸腔内吸引 (3) 膀胱留置カテーテル管理 2) 創傷処置の実際 (1) 創傷のアセスメント (2) ドレッシング	講義・演習	2	2. ストーマケアの実際 1) ストーマの観察方法 2) ストーマ装具の選択 3) ストーマケア方法	講義・演習
回	授業内容	授業方法										
1	1. 急激な身体侵襲をきたした患者の看護 1) チューブ・ドレーン管理 (1) 胃チューブ・イレウス管 (2) 持続吸引：低圧胸腔内吸引 (3) 膀胱留置カテーテル管理 2) 創傷処置の実際 (1) 創傷のアセスメント (2) ドレッシング	講義・演習										
2	2. ストーマケアの実際 1) ストーマの観察方法 2) ストーマ装具の選択 3) ストーマケア方法	講義・演習										
<p>授業の進め方</p> <p>それぞれのチューブの仕組みから管理の違い、絆創膏固定など日々のスキンケアについてわかるように演習を行う。本単元では、各種ドレーンの目的や管理方法、ストーマケアの方法、創傷処置の方法について、実演を通して学ぶ。</p>												
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論(医学書院)</li> <li>2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院)</li> </ol>												
<p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポート</li> <li>2. 授業態度、出席状況</li> </ol>												

領 域	専門分野Ⅱ(成人看護学)	開講時期	2年後期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅴ (フィジカルアセスメント他)	単 位 数 (時間数)	1単位(15時間)うち11時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	森口 奏相 (別府医療センター・救急看護認定看護師・看護師13年)		

<科目目標>

成人看護学概論・成人看護方法論で学んだ知識と基礎看護学で学んだ知識・技術を統合し、健康障害をもつ成人に応じた看護を理解する。

<単元目標>

- 健康障害に応じたヘルスアセスメントを実施できる。
- 急激な身体侵襲をきたした患者の看護方法を理解できる。(人工呼吸器装着、輸液ポンプを装着した患者)
- 気管内吸引が実施できる。
- 人工呼吸器、輸液ポンプをつけた患者の看護方法について理解できる。

<内容>

※課題の時期等は開講時期に指示する。

【課題1】

- フィジカルアセスメントを行うための知識の確認
  - 1)呼吸器系・循環器系・消化器系・神経系の解剖生理学
  - 2)視診・聴診・触診・打診の方法、留意事項(各技術は必ず自己練習を行い講義に臨むこと)

【課題2】

2. 口腔内・鼻腔内吸引を行うための知識の確認
  - 1)吸引に必要な解剖生理学(口腔・鼻腔・咽頭・肺等)
  - 2)吸引の目的
  - 3)吸引の方法と留意事項

【課題3】

3. 輸液ポンプ・人工呼吸器を行う上での基礎知識
  - 1)輸液ポンプの目的・使用方法・注意点
  - 2)人工呼吸器の目的・対象患者・換気モード

回	授業内容	授業方法
1～3	1. フィジカルアセスメントの実際(視診・聴診・触診・打診) 事例患者を通し、以下の全身状態の観察・評価を行う。 1)呼吸器系 2)循環器系 3)腹部 4)脳神経系 5)意識状態 (1)急変時の評価 i. 迅速評価 ii. 一次評価 iii. 二次評価	講義・演習
4～6	2. 急激な身体侵襲をきたした患者の看護の実際 1)心電図モニターの装着 2)吸引:気管内吸引 3)人工呼吸器・輸液ポンプ使用時の看護	講義・演習

領 域	専門分野Ⅱ (成人看護学)	開講時期	2年後期
科 目 名 (単元名)	成人看護方法論Ⅴ (フィジカルアセスメント他)	単 位 数 (時間数)	1 単位(15 時間) うち 11 時間
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	森口 奏相 (別府医療センター・救急看護認定看護師・看護師 13 年)		
<p>授業の進め方</p> <p>事例を用いてその患者の状態に応じた観察の方法や呼吸音、脈拍、心音、心電図などを理解させる。事例については病棟で起こりやすい事例(場面)を取り上げる。また、フィジカルアセスメントモデルなど実際に活用し演習を行う。</p>			
<p>テキスト</p> <p>1. 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント(インターメディカ)</p>			
<p>評価方法</p> <p>1. レポート、事前学習に基づく確認テスト</p> <p>2. 授業態度、出席状況、提出状況</p>			

領 域	専門分野Ⅱ（成人看護学）	開講時期	2年後期・3年前期
科 目 名	成人看護学実習Ⅱ	単 位 数 (時間数)	2単位（90時間）
講 師 (所属・職位等・実務経験)	上野 敏幸（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・13年）		
<p>&lt;科目目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性・長期的な疾病や障がいから生じる特徴的な生活状況を、身体的・心理的・社会的側面から捉えて理解できる。</li> <li>慢性・長期的な疾病や障がいから生じた健康問題を生活への影響として理解し、必要な看護を導き出すことができる。</li> <li>慢性・長期的な疾病や障がいをもつ対象に応じた援助ができる。</li> <li>社会復帰のための専門職との連携や継続看護の実際を理解できる。</li> <li>慢性・長期的な疾病や障がいのある対象への援助を通して看護についての考えを深めることができる。</li> <li>保健・医療チームの一員としての自覚をもち、専門職業人として望ましい態度がとれる。</li> </ol> <p>&lt;学習内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>対象（患者本人とその家族）を身体面・心理社会面の包括的なアセスメント</li> <li>疾病コントロールや機能障害に応じた生活の再構築</li> <li>対処能力を高める援助や病気の受け入れを促す援助</li> <li>疾病の進行を抑える援助</li> <li>長期あるいは一生涯にわたる疾患や疾患をもっていることで生活障がいを抱えている対象に必要な援助</li> <li>疾病の自己管理と自己管理行動に影響を及ぼすものを理解した援助。</li> <li>障がいの受容と社会生活を自分らしく送るための援助。</li> <li>患者の社会復帰のための多職種連携。</li> <li>慢性・長期的な疾病や障がいのある対象へ実施した看護の意味・価値。</li> <li>報告・連絡・相談内容や決められた時間や約束の厳守</li> </ol> <p>※詳細は成人看護学実習Ⅱ実習要項に準ずる</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論（医学書院）</li> <li>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器（医学書院）</li> <li>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器（医学書院）</li> <li>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経（医学書院）</li> <li>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器（医学書院）</li> <li>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病・感染症</li> <li>NANDA-I 看護診断 定義と分類（2018 - 2020）（医学書院）</li> <li>看護のための臨床病態学（南山堂）</li> <li>ザ・ロイ適応看護モデル 第2版（医学書院）</li> <li>よくわかる中範囲理論 第2版（学研）</li> </ol> <p>他 既習のテキストを活用する。</p>			
<p>評価方法</p> <p>学則細則第9条「授業科目の評価は講義・演習の授業科目について定期試験と随時試験によって行い、実習の授業科目については平素の実習状況及び内容、提出された諸記録、レポート等を総合して指導者が行う。」に準じて評価する。</p> <p>履修規定第12条3項「実習終了後は指定された期日までに指定のレポート類を提出しなければならない。期日までに提出せず放棄したとみなされる場合は、実習評価表のレポートに関する項目の評定を受けることができない。忌引きその他やむを得ない理由で指定された期日に提出できない場合は期限を指定する。</p>			

領 域	専門分野Ⅱ（成人看護学）	開講時期	3年前期・後期
科 目 名	成人看護学実習Ⅰ	単 位 数 (時間数)	2単位(90時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	大道 真理（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・15年）		
<p>&lt;科目目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期(術前)にある対象を身体的・精神的・社会的側面から捉えて理解できる。</li> <li>2. 麻酔および手術侵襲により身体侵襲を受ける周手術期(術中・術後)にある対象の変化を予測できる。</li> <li>3. 麻酔および手術療法により身体侵襲を受ける周手術期にある対象の健康段階に応じた援助ができる。</li> <li>4. 周手術期にある対象の家族が必要とする援助について理解できる。</li> <li>5. 周手術期の看護を通して、周手術期における看護の機能・役割について理解できる。</li> <li>6. 保健・医療チームの実践一員としての自覚をもち、専門職業人として望ましい態度がとれる。</li> <li>7. 安全・安楽に手術を受けられるように手術室の看護の基本について理解することができる。</li> <li>8. 急激な身体侵襲を受けた対象への医療看護の実際を理解することができる。</li> </ol> <p>&lt;学習内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 術前の対象の身体的・精神的・社会的側面の理解</li> <li>2. 術後の対象の状態の理解、術後の顕在する及び起こりうる看護問題の理解と看護の優先順位の決定</li> <li>3. 術前の対象への身体的・精神的準備への援助</li> <li>4. 術後の身体侵襲や麻酔の影響から考えられる術後に必要な観察と術後の対象への術後合併症の予防と回復促進のための援助</li> <li>5. 対象の術後の症状緩和、苦痛の緩和への援助、術後の生活指導や退院指導への援助</li> <li>6. 周手術期の対象や家族への心理的援助、周手術期における継続看護の意義や看護師の役割</li> <li>7. 安全・安楽に手術を受けられるように手術室の看護の基本について</li> <li>8. 急激な身体侵襲を受けた対象への看護について</li> </ol> <p>※詳細は成人看護学実習Ⅰ実習要項に準ずる</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論 (医学書院)</li> <li>2. 系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)</li> <li>3. 系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論 (医学書院)</li> <li>4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 (医学書院)</li> <li>5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器 (医学書院)</li> <li>6. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院)</li> <li>7. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 (医学書院)</li> <li>8. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器 (医学書院)</li> <li>9. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉頭 (医学書院)</li> <li>10. NANDA-I 看護診断 定義と分類 (2018 - 2020) (医学書院)</li> <li>11. 看護のための臨床病態学 (南山堂)</li> <li>12. よくわかる中範囲理論 第2版 (学研)</li> </ol> <p style="text-align: right;">他 既習のテキストを活用する。</p>			
<p>評価方法</p> <p>学則細則第9条「授業科目の評価は講義・演習の授業科目について定期試験と随時試験によって行い、実習の授業科目については平素の実習状況及び内容、提出された諸記録、レポート等を総合して指導者が行う。」に準じて評価する。</p> <p>履修規定第 12 条3項「実習終了後は指定された期日までに指定のレポート類を提出しなければならない。期日までに提出せず放棄したとみなされる場合は、実習評価表のレポートに関する項目の評定を受けることができない。忌引きその他やむを得ない理由で指定された期日に提出できない場合は期限を指定する。</p>			

領 域	専門分野Ⅱ（成人看護学）	開講時期	2年後期・3年前期
科 目 名	成人看護学実習Ⅱ	単 位 数 (時間数)	2単位 (90時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	上野 敏幸 (別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・13年)		
<p>&lt;科目目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性・長期的な疾病や障がいから生じる特徴的な生活状況を、身体的・心理的・社会的側面から捉えて理解できる。</li> <li>2. 慢性・長期的な疾病や障がいから生じた健康問題を生活への影響として理解し、必要な看護を導き出すことができる。</li> <li>3. 慢性・長期的な疾病や障がいをもつ対象に応じた援助ができる。</li> <li>4. 社会復帰のための専門職との連携や継続看護の実際を理解できる。</li> <li>5. 慢性・長期的な疾病や障がいのある対象への援助を通して看護についての考えを深めることができる。</li> <li>6. 保健・医療チームの一員としての自覚をもち、専門職業人として望ましい態度がとれる。</li> </ol> <p>&lt;学習内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 対象（患者本人とその家族）を身体面・心理社会面の包括的なアセスメント</li> <li>2. 疾病コントロールや機能障害に応じた生活の再構築</li> <li>3. 対処能力を高める援助や病気の受け入れを促す援助</li> <li>4. 疾病の進行を抑える援助</li> <li>5. 長期あるいは一生にわたる疾患や疾患をもっていることで生活障がいを抱えている対象に必要な援助</li> <li>6. 疾病の自己管理と自己管理行動に影響を及ぼすものを理解した援助。</li> <li>7. 障がいの受容と社会生活を自分らしく送るための援助。</li> <li>8. 患者の社会復帰のための多職種連携。</li> <li>9. 慢性・長期的な疾病や障がいのある対象へ実施した看護の意味・価値。</li> <li>10. 報告・連絡・相談内容や決められた時間や約束の厳守</li> </ol> <p>※詳細は成人看護学実習Ⅱ実習要項に準ずる</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論 (医学書院)</li> <li>2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器 (医学書院)</li> <li>3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 (医学書院)</li> <li>4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経 (医学書院)</li> <li>5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [10] 運動器 (医学書院)</li> <li>6. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病・感染症</li> <li>7. NANDA-I 看護診断 定義と分類 (2018 - 2020) (医学書院)</li> <li>8. 看護のための臨床病態学 (南山堂)</li> <li>9. ザ・ロイ適応看護モデル 第2版 (医学書院)</li> <li>10. よくわかる中範囲理論 第2版 (学研) 他 既習のテキストを活用する。</li> </ol>			
<p>評価方法</p> <p>学則細則第9条「授業科目の評価は講義・演習の授業科目について定期試験と随時試験によって行い、実習の授業科目については平素の実習状況及び内容、提出された諸記録、レポート等を総合して指導者が行う。」に準じて評価する。</p> <p>履修規定第12条3項「実習終了後は指定された期日までに指定のレポート類を提出しなければならない。期日までに提出せず放棄したとみなされる場合は、実習評価表のレポートに関する項目の評定を受けることができない。忌引きその他やむを得ない理由で指定された期日に提出できない場合は期限を指定する。</p>			

領 域	専門分野Ⅱ（成人看護学）	開講時期	3年前期・後期
科 目 名	成人看護学実習Ⅲ	単 位 数 (時間数)	2単位（90時間）
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田長丸 美和（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・22年）		
<p>&lt;科目目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期（治癒困難）にある患者の身体的・心理的・社会的・霊的側面から捉えて理解できる。</li> <li>2. 終末期（治癒困難）にある患者が抱える健康問題の特徴を理解した上で、必要な看護を導き出すことができる。</li> <li>3. 終末期（治癒困難）にある患者の基本的ニーズの充足につとめ、QOLを高める援助ができる。</li> <li>4. 健康障がい起因する現在および予測される身体的苦痛の緩和への援助ができる。</li> <li>5. 終末期（治癒困難）にある対象の心理状態に応じた援助を理解できる。</li> <li>6. 終末期（治癒困難）にある患者の家族への援助が理解できる。</li> <li>7. 終末期（治癒困難）にある患者への看護実践をとおして生命の尊厳について考えを深め、専門職業人として看護師の役割を理解できる。</li> <li>8. 終末期（治癒困難）にある患者および家族とのかかわりを通して、自己の死生観・看護観を深めることができる。</li> <li>9. 保健・医療チームの一員としての自覚をもち、専門職業人として望ましい態度がとれる。</li> </ol> <p>&lt;学習内容&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期にある患者を身体的・心理的・社会的・霊的側面から理解した援助</li> <li>2. 終末期にある患者の基本的ニーズの充足につとめ、患者にとってのQOLを考えた援助</li> <li>3. 健康障がい起因する身体的苦痛の緩和への援助</li> <li>4. 終末期にある患者への看護実践を通して生命の尊厳について考え、患者本人および家族の気持ちを考慮した関わり方</li> <li>5. 終末期医療における医療チームにおける看護師の役割と協働</li> <li>6. 適時な報告・連絡・相談の実施</li> <li>7. 多職種連携の理解と専門職業人としての責任ある行動</li> </ol> <p>※詳細は成人看護学実習Ⅲ実習要項に準ずる</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [1] 成人看護学総論（医学書院）</li> <li>2. 系統看護学講座別巻 緩和ケア（医学書院）</li> <li>3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [2] 呼吸器（医学書院）</li> <li>4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [3] 循環器（医学書院）</li> <li>5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 消化器（医学書院）</li> <li>6. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 脳・神経（医学書院）</li> <li>7. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症（医学書院）</li> <li>8. NANDA-I 看護診断 定義と分類〈2018 - 2020〉（医学書院）</li> <li>9. 看護のための臨床病態学（南山堂）</li> <li>10. ザ・ロイ適応看護モデル 第2版（医学書院）</li> <li>11. よくわかる中範囲理論 第2版（学研）</li> <li>12. 基礎看護学技術Ⅰ（医学書院）</li> <li>13. 基礎看護学技術Ⅱ（医学書院）</li> <li>14. 看護技術がみえる Vol 1 基礎看護技術（メディックメディア）</li> <li>15. 看護技術がみえる Vol 2 基礎看護技術（メディックメディア）</li> </ol> <p>他 既習のテキストを活用する。</p>			

領 域	専門分野Ⅱ（成人看護学）	開講時期	3年前期・後期
科 目 名	成人看護学実習Ⅲ	単 位 数 (時間数)	2単位（90時間）
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田長丸 美和（別府医療センター附属大分中央看護学校・専任教員・22年）		
<p>評価方法</p> <p>学則細則第9条「授業科目の評価は講義・演習の授業科目について定期試験と随時試験によって行い、実習の授業科目については平素の実習状況及び内容、提出された諸記録、レポート等を総合して指導者が行う。」に準じて評価する。</p> <p>履修規定第12条3項「実習終了後は指定された期日までに指定のレポート類を提出しなければならない。期日までに提出せず放棄したとみなされる場合は、実習評価表のレポートに関する項目の評定を受けることができない。忌引きその他やむを得ない理由で指定された期日に提出できない場合は期限を指定する。</p>			